

## 第2学年算数科学習指導案

日 時 平成16年10月22日(金)2校時  
学 年 2学年 男10名 女8名 計18名  
指導者 川村まき子

### 1 単元名

あたらしい計算をかんがえよう かけ算(1)

### 2 単元の目標

乗法の意味について理解し、それを用いることができる。

〔関心・意欲・態度〕・乗法に関心を持ち、ものの個数をとらえるときに進んで乗法を用いようとする。

〔数学的な考え方〕・乗法九九が用いられる場合について、「1つ分の大きさ」「いくつ分」をとらえて全体の個数の求め方について考える。

〔表現・処理〕・乗法が用いられる場合を具体物や式で表すことができる。

・乗法九九(5, 2, 3, 4の段)を構成し、確実に唱えることができる。

〔知識・理解〕・乗法が用いられる場合を理解する。

・乗法九九(5, 2, 3, 4の段)の構成の仕方を理解する。

### 3 単元について

#### (1) 本単元の基礎・基本

- ・「1つ分の大きさ」と「いくつ分」「ぜんぶの数」の関係と、乗法が用いられる場合を理解する。
  - ・乗法九九(5, 2, 3, 4の段)を構成し、確実に唱えることができる。
- 以上二つを本単元の基礎・基本と考える。

#### (2) 教材について

1年生では、2ずつや5ずつまとめて数えることや「10を6個集めた数は60である」といったように数の理解と関連づけて、ひとまとまりの数とまとまりの数からものの総数を求めるなどの具体的な活動を通して、乗法の素地的な経験をしてきている。

本単元では、これらの経験をもとにして、乗法が用いられる実際の場面を通して、乗法の意味が「1つ分の大きさ」が決まっているときそのいくつ分かを求める時に用いられる計算であり累加の簡潔な表現であるということを理解できるようにする。また、児童自らがこの意味に基づいて乗法九九を構成する活動を通して、乗法九九について成り立つ「乗数が1増えると積は被乗数分だけ増える」といった性質を見だし、効率よく乗法九九を構成したりするなど、乗法九九を知り計算が確実にできるようにすることをねらいとしている。

乗法九九については、以後の学年で取り扱う乗法計算の基礎的技能として不可欠であり、それを構成したり理解したりするに当たっては、体験的活動や身近な生活経験などに結び付けるなど、指導の方法を工夫し習熟を図ることが大切である。

#### (3) 児童の実態

2年生は、学習の仕方が分かり集中して学習に取り組もうとするようになってきた。算数プリントやカード練習などのドリルの学習は意欲的である。算数アンケートの結果は、児童のほとんどが算数は「面白い」「楽しい」と感じ、「難しい」「分かりにくい」と感じている児童は少なく算数に対して意欲的である。しかし、既習事項を生かして解決方法の見通しをもち、ブロック操作や図をかいて自分なりに自力解決したり、考えたことを順序よく具体操作や図で説明したりす

ることは、苦手とする児童が多い。

また、数概念の理解が不十分で、数の合成・分解や大きな数構成の把握は、念頭では難しくブロック操作を必要とする児童がまだ数名いる。本単元での、乗法九九を構成するための加法計算を念頭で素早く処理し答えを求めることは抵抗が大きいと思われる。

レディネステストの結果は、「同数ずつにまとめる」ことや「10, 5, 2 とびで数えること」などについてはほとんどの児童ができていた。「10, 2, 5 とび」の誤答や「まとめる」「いくつ分」という言葉の意味理解ができないための誤答が3名いた。P1テストの結果は、乗法計算で10問中全問正解者はなく、6問以上は6名、ほとんど不正解が12名だった。「立式や答えを求める問題」では1名のみ正解していた。「かけ算のきまり」については全員理解してなかった。「かけ算」については、2年生で習う重要な学習であると認識し興味を持っているが、予備知識や理解度はかなり低い。

#### (4) 指導にあたって

第1小単元では、遊園地の絵をもとに、場面に即して数量の関係を表現する活動をさせる。その活動を通して、同じ大きさの数量「1つ分の大きさ」(a)に着目させ、それが「いくつ分」(n)あるかを明確にし「ぜんぶの数」(aのnつ分がm)をとらえさせながら乗法の意味を理解させる。そして、「1つ分の大きさ」「いくつ分」「ぜんぶの数」という言葉や「何のいくつ分で何」という言い方を自力解決の見通しとし、絵の中から関係を見つけさせたりおはじきを並べさせたりする活動を通して、式の表し方や累加による答えの求め方を理解させる。

第2小単元では、5の段の九九を構成する学習を通して、乗法の意味や積の求め方の理解を反復的に指導し、理解を深めさせることに重点をおく。次に2の段の九九についても5の段と同じように指導し、その際に九九の有用性についても理解させる。この段階では、九九を構成させる時の自力解決の見通しとして、アレイ図を用いた具体的操作から「1つ分の大きさ」の数を「いくつ分」の数だけ累加すればよいことに気づかせ、部分的な自力解決で九九を構成させる。

第3小単元では、3と4の段の九九の構成を、段階を追って児童自らが乗法九九を工夫しながら構成していくことができるようにし、理解を確かなものにする。自力解決の見通しとして、5の段や2の段の九九の構成の仕方を具体的に想起させ自力解決させる。その際、「答えの求め方のよい方法はないか」や「かける数が1増えると答えはいくつ増えるか」などの発問をし、乗法の性質にも目を向けさせるようにする。

まとめの小単元では、「たしかめ」や「九九表」への書き込みなどの学習を通して、各自に学習内容の理解の確認をさせ不十分な九九については習熟を図る。また、乗数の規則性の理解を深め、かけ算への興味を広げるようにする。

この単元の学習を通して、言葉やアレイ図を用いた具体的な操作と言葉や式をしっかりと関連させながら、繰り返し指導し理解と定着を図る。さらに、繰り返し指導することで、既習の知識や技能、考えを生かして自力解決したり、考えたことを順序よく説明したりできるようにする。また、乗法九九の習熟が意欲的にできるように「九九カードによる練習」を計画的に取り入れ、単元の終わりに2時間増やし「九九ビンゴ」大会を設定する。

#### (5) 習熟度に考慮した指導について

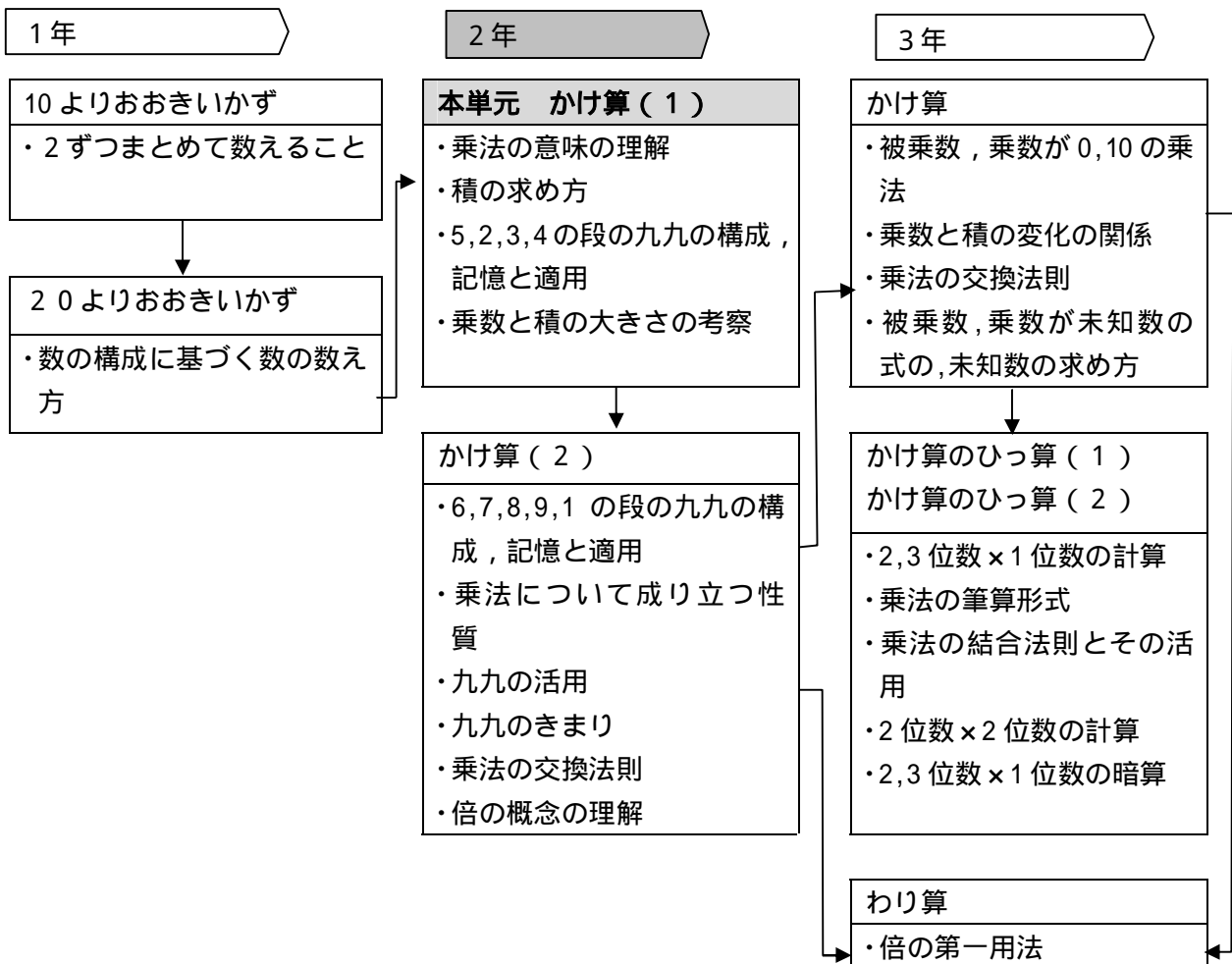
かけ算についての学習は初めてであり、この単元を通して「1つ分の大きさ」と「いくつ分」「ぜんぶの数」の関係把握と乗法九九の構成や記憶がしっかりできるようにする。そのために、具体的操作と計算式を関連させながら、乗法の意味を理解させるドリルの学習を位置づけ取り組ませていく。

原理理解や拡充場面でのドリルの学習として、「調べる」や「広める」場面では、自力解決が困難な児童には、おはじきを並べる操作を通して「同じ数のまとまり」に着目させ、それが「いくつ分」

あるかを視覚的に見つけさせる活動を繰り返し行い「 $a$ の $n$ つ分が $m$ 」に当てはめた言い方を理解させていく。また、九九の構成では、既習事項をもとにおはじきやアレイ図を使って繰り返し累加の方法で答えを求めさせ、九九構成の仕方を分からせていく。また、達成状況が十分と思われる児童には、自分の考えや友達のことを「 $a$ の $n$ つ分が $m$ 」に当てはめた言い方で検証させ、妥当性を説明させるなどの活動を取り入れ理解を確かにする。九九の構成では、既習事項を繰り返し確認し、見通しを持たせることで効率のよい答えの求め方を考えさせたり、自分の考えを言葉や図などで説明させたりして理解を深める。

習熟の場面では、学習内容の理解の確認を行い、理解や記憶が不十分な内容については、言葉での関係把握の確認と「計算カードによる九九練習」などで繰り返し指導する。習熟が不十分で努力を要すると思われる児童には、アレイ図や九九構成表などを用いて、正しく唱えられるような練習をさせ、記憶できるようにする。達成状況が十分と思われる児童には、すぐ答えが出せるような練習をさせ、習熟を図る。

#### 4 教材の関連と発展



5 単元指導・評価計画・・・21時間(19+2)

時	目標	学習活動 ( は主な活動)	評価規準	主な具体の評価規準	努力を要する場合の 支援の手立て
				おおむね満足できる(B)	
(1) かけ算 5時間 下p.2~8					
1 . 2	〔プロローク〕・p.2の絵を提示し、遊園地の入り口付近で整列した人とはばらばらの人の数を数えることを通して、かけ算への興味、関心を高めるようにする。 「1つぶんの大きさ」「いくつぶん」をとらえられるようになる。	・絵を見てそれぞれの乗り物に乗っている子ども的人数を調べる。  1台に同じ人数ずつ乗っていることから、「1つぶんの大きさ」と「いくつ分」をとらえる。  ・【ドリルの学習】	関もの個数を数えるのに「ある大きさのいくつ分」ととらえ、まとまりをつくりながら数えようとしている。  (観察)  表数量の関係を「1つ分の大きさ」の「いくつ分」ととらえることができる。  (発表・ノート)	表乗法で表せる場面を具体物や半具体物を操作しながら「1つ分の大きさ」「いくつ分」ととらえ、全体の個数の求め方についてとらえている。  求め方 <input type="text"/> <input type="text"/> 5人のまとまりが4こ、3回たすと20人。  <input type="text"/> <input type="text"/>  5, 10, 15, 20と、5とびで数えたら20人  5 + 5 + 5 + 5 = 20     20人 ↓ 答え 舟には、1そうに5人ずつ4そう分で20人乗っている。	表おはじきを並べて、同じ数のまとまりに着目させる。そのまとまりがいくつあるかを見つけさせる。そして、穴あきカードにあてはめさせて言葉での表現に慣れさせる。
3 . 4	乗法の意味を理解する  用語「かけ算」を知る。 ・【ドリルの学習】  〔やってみよう〕身の回りのかけ算の式に表せる場面を見つける。	4 × 3 = 12 の式の意味を理解する。  ・用語「かけ算」を知る。 ・【ドリルの学習】  〔やってみよう〕身の回りのかけ算の式に表せる場面を見つける。	知数量の関係を「1つ分の大きさ」の「いくつ分」ととらえ、それを簡潔に表したものが乗法の式であることを理解している。  (発表・ノート)  表乗法の場面を式に表したり、式を読んだりすることができる。  (学習プリント・発表)  関もの個数をとらえるときに、乗法を用いようとしている。  (観察)	知数量の関係を「1つ分の大きさ」の「いくつ分」ととらえ、それを簡潔に表したものが乗法の式であることを理解している。  のっている人数は、1だい4人ずつの3だいぶん、12人です。このことをしきで、つぎのようにかきます。 書き方            4     ×     3       =   12  読み方            「四   かける   三       は   十二」  いみ                「1つ分の数」×「いくつぶん」=「ぜんぶの数」  表乗法の場面を「1つ分の大きさ」「いくつ分」ととらえ、「×」の記号を用いて式に表したり、式で表されたものを具体物や半具体物に置き換えて、読んだりすることができる。  (1)りんごは、1さらに2こずつの4さらぶん、8こです。式は、2×4=8。 (2)プリンは、1パック3こずつの5つぶん、15こです。式は、3×5=15。 ↓ 4×3や2×4のような計算をかけ算といいます。	知おはじきの並べ方と式を対応させたり、言葉の式に置き換えさせたりして理解させる。  表おはじきと言葉と式を対応させて、それぞれの意味を分からせる。そして、「1つ分の大きさ」×「いくつ分」=「ぜんぶの数」の式を分からせる。

5	乗法の答えは被乗数を乗数の数だけ累加して求められることを理解する。	・場面をとらえ、立式や答えの求め方について考える。 被乗数を乗数の数だけ累加して求められることを理解する。 ・【ドリルの学習】	考 乗法の答えは加法を用いて求められることに気づく。 (ノート・発言) 表 乗法の答えを、被乗数を乗数の数だけ累加する方法で求めることができる。 (発表・プリント)	表 乗法の答えを、被乗数を乗数の数だけ累加する方法で求めることができる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>しき <math>6 \times 3 = 18</math> (6本)(3はこ)</p> <p>出し方 <math>6 + 6 = 12</math> <math>12 + 6 = 18</math> <math>6 + 6 + 6 = 18</math> 「ひとつぶん」を「いくつぶんだけ」じゅんにたす。</p> <p>答え 18本</p> </div>	表 おはじきを並べて「何のいくつ分」をおさえさせる。そして累加の方法で答えを求めればよいことに気づかせる。
---	-----------------------------------	---	---	--	---

(2) 5の段、2の段の九九 6時間 下p.9~12

1	5の段の九九を構成する。	1艘の舟に5人ずつ乗っているときの1~4艘分の人数を求める。 累加や5とびで5の段の九九を構成する。	表 5の段の九九を構成することができる。 (ノート) 知 5の段の九九の構成の仕方を理解している。 (発表・ノート)	知 問題提示に対して、前時までの考え方を活用して、5の段の構成の仕方がわかる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>5の段の九九 アレイ図で数えながら、5ずつたしていく。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr><td>1 ぞうぶん</td><td><math>5 \times 1 = 5</math></td></tr> <tr><td>2 ぞうぶん</td><td><math>5 \times 2 = 10</math></td></tr> <tr><td>3 ぞうぶん</td><td><math>5 \times 3 = 15</math></td></tr> <tr><td>4 ぞうぶん</td><td><math>5 \times 4 = 20</math></td></tr> <tr><td>5 ぞうぶん</td><td><math>5 \times 5 = 25</math></td></tr> <tr><td>6 ぞうぶん</td><td><math>5 \times 6 = 30</math></td></tr> <tr><td>7 ぞうぶん</td><td><math>5 \times 7 = 35</math></td></tr> <tr><td>8 ぞうぶん</td><td><math>5 \times 8 = 40</math></td></tr> <tr><td>9 ぞうぶん</td><td><math>5 \times 9 = 45</math></td></tr> </table> <p>5の段の九九 累加で、5ずつたしていく。 積 + 被乗数で、5ずつたしていく。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr><td>5人の1ぞう分</td><td><math>5 \times 1 = 5</math></td></tr> <tr><td>5人の2ぞう分</td><td><math>5 \times 2 = 10</math> 5+5</td></tr> <tr><td>5人の3ぞう分</td><td><math>5 \times 3 = 15</math> 5+5+5</td></tr> <tr><td>5人の4ぞう分</td><td><math>5 \times 4 = 20</math> 5+5+5+5</td></tr> <tr><td colspan="2">(4ぞう分の答えに5をたして)</td></tr> <tr><td>5人の5ぞう分</td><td><math>5 \times 5 = 25</math> 20+5</td></tr> <tr><td>5人の6ぞう分</td><td><math>5 \times 6 = 30</math> 25+5</td></tr> <tr><td>5人の7ぞう分</td><td><math>5 \times 7 = 35</math> 30+5</td></tr> <tr><td>5人の8ぞう分</td><td><math>5 \times 8 = 40</math> 35+5</td></tr> <tr><td>5人の9ぞう分</td><td><math>5 \times 9 = 45</math> 40+5</td></tr> </table> </div>	1 ぞうぶん	$5 \times 1 = 5$	2 ぞうぶん	$5 \times 2 = 10$	3 ぞうぶん	$5 \times 3 = 15$	4 ぞうぶん	$5 \times 4 = 20$	5 ぞうぶん	$5 \times 5 = 25$	6 ぞうぶん	$5 \times 6 = 30$	7 ぞうぶん	$5 \times 7 = 35$	8 ぞうぶん	$5 \times 8 = 40$	9 ぞうぶん	$5 \times 9 = 45$	5人の1ぞう分	$5 \times 1 = 5$	5人の2ぞう分	$5 \times 2 = 10$ 5+5	5人の3ぞう分	$5 \times 3 = 15$ 5+5+5	5人の4ぞう分	$5 \times 4 = 20$ 5+5+5+5	(4ぞう分の答えに5をたして)		5人の5ぞう分	$5 \times 5 = 25$ 20+5	5人の6ぞう分	$5 \times 6 = 30$ 25+5	5人の7ぞう分	$5 \times 7 = 35$ 30+5	5人の8ぞう分	$5 \times 8 = 40$ 35+5	5人の9ぞう分	$5 \times 9 = 45$ 40+5	知 舟の数に合わせて、5のまとまりの数を数えたり、5とびで数えたりすれば答えがだせることに気づかせる。 式と答を対応させながら考えさせる。
1 ぞうぶん	$5 \times 1 = 5$																																										
2 ぞうぶん	$5 \times 2 = 10$																																										
3 ぞうぶん	$5 \times 3 = 15$																																										
4 ぞうぶん	$5 \times 4 = 20$																																										
5 ぞうぶん	$5 \times 5 = 25$																																										
6 ぞうぶん	$5 \times 6 = 30$																																										
7 ぞうぶん	$5 \times 7 = 35$																																										
8 ぞうぶん	$5 \times 8 = 40$																																										
9 ぞうぶん	$5 \times 9 = 45$																																										
5人の1ぞう分	$5 \times 1 = 5$																																										
5人の2ぞう分	$5 \times 2 = 10$ 5+5																																										
5人の3ぞう分	$5 \times 3 = 15$ 5+5+5																																										
5人の4ぞう分	$5 \times 4 = 20$ 5+5+5+5																																										
(4ぞう分の答えに5をたして)																																											
5人の5ぞう分	$5 \times 5 = 25$ 20+5																																										
5人の6ぞう分	$5 \times 6 = 30$ 25+5																																										
5人の7ぞう分	$5 \times 7 = 35$ 30+5																																										
5人の8ぞう分	$5 \times 8 = 40$ 35+5																																										
5人の9ぞう分	$5 \times 9 = 45$ 40+5																																										

2	5の段の九九を記憶し適用する。	用語「九九」を知り、5の段の九九を唱え、カードなどを使って練習をする。 【ドリルの学習】 ・5の段の九九の答えは5ずつ増えていることを確認する。 5の段の九九を用いて問題を解決する。 [T・T]	知 5の段の九九の構成の仕方を理解している。 (発表) 表 5の段の九九を唱えることができ、それを用いて身の回りの問題を解決することができる。 (観察・学習プリント)	表 5の段の九九を順序よく正確に唱えることができる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>5の段の九九の言いかた 5ずつふえている。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr><td><math>5 \times 1 = 5</math></td><td>五一が5</td><td><math>5 \times 6 = 30</math></td><td>五六30</td></tr> <tr><td><math>5 \times 2 = 10</math></td><td>五二10</td><td><math>5 \times 7 = 35</math></td><td>五七35</td></tr> <tr><td><math>5 \times 3 = 15</math></td><td>五三15</td><td><math>5 \times 8 = 40</math></td><td>五八40</td></tr> <tr><td><math>5 \times 4 = 20</math></td><td>五四20</td><td><math>5 \times 9 = 45</math></td><td>五九45</td></tr> <tr><td><math>5 \times 5 = 25</math></td><td>五五25</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>れんじゅうのしかた            かけ算の式や九九、アレイ図を見て、正しく唱えられるようにする。(2時)            「五一が5」から「五九45」まで、順に唱えられるようにする。(2時)            「五九45」から「五一が5」まで、逆に唱えられるようにする。(3時)            順不同で、「カードによる九九練習 一人で 二人で 教師と」(3時)            問題を解く。(3時)</p> </div>	$5 \times 1 = 5$	五一が5	$5 \times 6 = 30$	五六30	$5 \times 2 = 10$	五二10	$5 \times 7 = 35$	五七35	$5 \times 3 = 15$	五三15	$5 \times 8 = 40$	五八40	$5 \times 4 = 20$	五四20	$5 \times 9 = 45$	五九45	$5 \times 5 = 25$	五五25			表 アレイ図・九九・式を対応させながら練習させる。 「5ずつ増えていく」ことをアレイ図などで視覚的に分からせ、5とびの答えを覚えればよいことに気づかせる。 「練習の仕方」で繰り返し練習させ、正確な唱え方を覚えさせる。
$5 \times 1 = 5$	五一が5	$5 \times 6 = 30$	五六30																						
$5 \times 2 = 10$	五二10	$5 \times 7 = 35$	五七35																						
$5 \times 3 = 15$	五三15	$5 \times 8 = 40$	五八40																						
$5 \times 4 = 20$	五四20	$5 \times 9 = 45$	五九45																						
$5 \times 5 = 25$	五五25																								
3																									

4	2の段の九九を構成する。	<p>1台の車に2人ずつ乗っているときの1~5台分の人数を求める。</p> <p>累加や2とびで2の段の九九を構成する。</p>	<p><b>考</b>5の段の九九と同じ考えを用いて2の段の構成を考えている。 (ノート)</p> <p><b>表</b>2の段の九九を構成することができる。 (ノート)</p> <p><b>知</b>2の段の九九の構成の仕方を理解している。 (ノート・発言)</p>	<p><b>考</b>問題提示に対して、既習の考え方を活用して、2の段の構成の仕方を考えることができる。</p> <p><b>2のだんの九九</b> アレイ図。5のだんのように順に2ずつたしていけばよい。</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>1 だいぶん <input type="checkbox"/></td> <td><math>2 \times 1 = 2</math></td> <td>6 だいぶん <input type="checkbox"/></td> <td><math>2 \times 6 = 12</math></td> </tr> <tr> <td>2 だいぶん <input type="checkbox"/></td> <td><math>2 \times 2 = 4</math></td> <td>7 だいぶん <input type="checkbox"/></td> <td><math>2 \times 7 = 14</math></td> </tr> <tr> <td>3 だいぶん <input type="checkbox"/></td> <td><math>2 \times 3 = 6</math></td> <td>8 だいぶん <input type="checkbox"/></td> <td><math>2 \times 8 = 16</math></td> </tr> <tr> <td>4 だいぶん <input type="checkbox"/></td> <td><math>2 \times 4 = 8</math></td> <td>9 だいぶん <input type="checkbox"/></td> <td><math>2 \times 9 = 18</math></td> </tr> <tr> <td>5 だいぶん <input type="checkbox"/></td> <td><math>2 \times 5 = 10</math></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p><b>2のだんの九九</b> 累加と、積+被乗数で、5のだんのように、2ずつたしていけばよい。</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>2人の1 だい分</td> <td><math>2 \times 1 = 2</math></td> <td>(5 だいの答えに2をたして)</td> </tr> <tr> <td>2人の2 だい分</td> <td><math>2 \times 2 = 4</math></td> <td>2+2</td> </tr> <tr> <td>2人の3 だい分</td> <td><math>2 \times 3 = 6</math></td> <td>2+2+2</td> </tr> <tr> <td>2人の4 だい分</td> <td><math>2 \times 4 = 8</math></td> <td>2+2+2+2</td> </tr> <tr> <td>2人の5 だい分</td> <td><math>2 \times 5 = 10</math></td> <td>2+2+2+2+2</td> </tr> </table>	1 だいぶん <input type="checkbox"/>	$2 \times 1 = 2$	6 だいぶん <input type="checkbox"/>	$2 \times 6 = 12$	2 だいぶん <input type="checkbox"/>	$2 \times 2 = 4$	7 だいぶん <input type="checkbox"/>	$2 \times 7 = 14$	3 だいぶん <input type="checkbox"/>	$2 \times 3 = 6$	8 だいぶん <input type="checkbox"/>	$2 \times 8 = 16$	4 だいぶん <input type="checkbox"/>	$2 \times 4 = 8$	9 だいぶん <input type="checkbox"/>	$2 \times 9 = 18$	5 だいぶん <input type="checkbox"/>	$2 \times 5 = 10$			2人の1 だい分	$2 \times 1 = 2$	(5 だいの答えに2をたして)	2人の2 だい分	$2 \times 2 = 4$	2+2	2人の3 だい分	$2 \times 3 = 6$	2+2+2	2人の4 だい分	$2 \times 4 = 8$	2+2+2+2	2人の5 だい分	$2 \times 5 = 10$	2+2+2+2+2	<p><b>考</b>5の段の九九を作るときのことを想起させ、自動車の数に合わせて、2ずつ増えていくことに気づかせる。</p> <p>いくつずつたしていけばよいか考えさせ、式と答を対応させながら順に作らせる。</p>
1 だいぶん <input type="checkbox"/>	$2 \times 1 = 2$	6 だいぶん <input type="checkbox"/>	$2 \times 6 = 12$																																					
2 だいぶん <input type="checkbox"/>	$2 \times 2 = 4$	7 だいぶん <input type="checkbox"/>	$2 \times 7 = 14$																																					
3 だいぶん <input type="checkbox"/>	$2 \times 3 = 6$	8 だいぶん <input type="checkbox"/>	$2 \times 8 = 16$																																					
4 だいぶん <input type="checkbox"/>	$2 \times 4 = 8$	9 だいぶん <input type="checkbox"/>	$2 \times 9 = 18$																																					
5 だいぶん <input type="checkbox"/>	$2 \times 5 = 10$																																							
2人の1 だい分	$2 \times 1 = 2$	(5 だいの答えに2をたして)																																						
2人の2 だい分	$2 \times 2 = 4$	2+2																																						
2人の3 だい分	$2 \times 3 = 6$	2+2+2																																						
2人の4 だい分	$2 \times 4 = 8$	2+2+2+2																																						
2人の5 だい分	$2 \times 5 = 10$	2+2+2+2+2																																						
5	2の段の九九を記憶し適用する。	<p>2の段の九九を唱え、カードなどを使って練習をする。</p> <p>【ドリル的学習】</p> <p>・2の段の九九の答えは2ずつ増えていることを確認する。</p>	<p><b>知</b>2の段の九九の構成の仕方を理解している。 (発表)</p> <p><b>表</b>2の段の九九を唱えることができ、それを用いて身の回りの問題を解決することができる。 (観察・学習プリント)</p>	<p><b>表</b>2の段の九九を順序よく正確に唱えることができる。</p> <p><b>2のだんの九九の言いかた</b> 2ずつふえている。</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td><math>2 \times 1 = 2</math></td> <td>二一が2</td> <td><math>2 \times 6 = 12</math></td> <td>二六12</td> </tr> <tr> <td><math>2 \times 2 = 4</math></td> <td>二二が4</td> <td><math>2 \times 7 = 14</math></td> <td>二七14</td> </tr> <tr> <td><math>2 \times 3 = 6</math></td> <td>二三が6</td> <td><math>2 \times 8 = 16</math></td> <td>二八16</td> </tr> <tr> <td><math>2 \times 4 = 8</math></td> <td>二四が8</td> <td><math>2 \times 9 = 18</math></td> <td>二九18</td> </tr> <tr> <td><math>2 \times 5 = 10</math></td> <td>二五10</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p><b>れんしゅうのしかた</b> かけ算の式や九九、アレイ図を見て、正しく唱えられるようにする。(5時) 「二一が2」から「二九18」まで、順に唱えられるようにする。(5時)</p> <p>「二九18」から「二一が2」まで、逆に唱えられるようにする。(6時) 順不同で。「カードによる九九練習 一人で 二人で 教師と」(6時) 問題を解く。(6時)</p>	$2 \times 1 = 2$	二一が2	$2 \times 6 = 12$	二六12	$2 \times 2 = 4$	二二が4	$2 \times 7 = 14$	二七14	$2 \times 3 = 6$	二三が6	$2 \times 8 = 16$	二八16	$2 \times 4 = 8$	二四が8	$2 \times 9 = 18$	二九18	$2 \times 5 = 10$	二五10			<p><b>表</b>アレイ図・九九・式を対応させながら練習させる。</p> <p>「2ずつ増えていく」ことを具体的に分からせ2とびの答えを覚えればよいことに気づかせる。</p> <p>「練習の仕方」で繰り返し練習させ、正確な唱え方を覚えさせる。</p>															
$2 \times 1 = 2$	二一が2	$2 \times 6 = 12$	二六12																																					
$2 \times 2 = 4$	二二が4	$2 \times 7 = 14$	二七14																																					
$2 \times 3 = 6$	二三が6	$2 \times 8 = 16$	二八16																																					
$2 \times 4 = 8$	二四が8	$2 \times 9 = 18$	二九18																																					
$2 \times 5 = 10$	二五10																																							
6		2の段の九九を用いて問題を解決する。 [ T・T ]																																						

(3) 3の段, 4の段の九九 6時間 下p.13~16																																														
1	<p>3の段の九九を構成する。</p>	<p>1台のコーヒーカップに3人ずつ乗っている時の1~4台分の人数を求め。</p> <p>3×4の答えにくつつたせば3×5になるかを考える。</p> <p>3×5の積に3をたせば3×6の積になることを活用して3の段の九九を構成する。</p> <p>・用語「かけられる数」「かける数」を知る。</p>	<p><b>関</b>もの個数をとらえるとき、すすんで乗法を用いようとする。(発言)</p> <p><b>考</b>乗法について成り立つ性質を用いて、九九の構成の仕方について考えている。(発言・発表・ノート)</p> <p><b>表</b>3の段の九九を構成することができる。(観察・ノート)</p>																																											
<p><b>考</b>問題提示に対して、既習の考え方を活用して、3の段の構成の仕方を考えることができる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><b>3の段の九九</b> アレイ図。5や2の段のように3ずつたしていけばよい。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 15%;">1だいぶん</td><td style="width: 10%; border: 1px solid black; height: 15px;"></td><td style="width: 10%;"><math>3 \times 1 = 3</math></td><td style="width: 10%;"></td><td style="width: 10%;"><math>3 \times 1 = 3</math></td></tr> <tr><td>2だいぶん</td><td style="border: 1px solid black; height: 15px;"></td><td><math>3 \times 2 = 6</math></td><td></td><td><math>3 \times 2 = 6</math></td></tr> <tr><td>3だいぶん</td><td style="border: 1px solid black; height: 15px;"></td><td><math>3 \times 3 = 9</math></td><td></td><td><math>3 \times 3 = 9</math></td></tr> <tr><td>4だいぶん</td><td style="border: 1px solid black; height: 15px;"></td><td><math>3 \times 4 = 12</math></td><td></td><td><math>3 \times 4 = 12</math></td></tr> <tr><td>5だいぶん</td><td style="border: 1px solid black; height: 15px;"></td><td><math>3 \times 5 = 15</math></td><td></td><td><math>3 \times 5 = 15</math></td></tr> <tr><td>6だいぶん</td><td style="border: 1px solid black; height: 15px;"></td><td><math>3 \times 6 = 18</math></td><td></td><td><math>3 \times 6 = 18</math></td></tr> <tr><td>7だいぶん</td><td style="border: 1px solid black; height: 15px;"></td><td><math>3 \times 7 = 21</math></td><td></td><td><math>3 \times 7 = 21</math></td></tr> <tr><td>8だいぶん</td><td style="border: 1px solid black; height: 15px;"></td><td><math>3 \times 8 = 24</math></td><td></td><td><math>3 \times 8 = 24</math></td></tr> <tr><td>9だいぶん</td><td style="border: 1px solid black; height: 15px;"></td><td><math>3 \times 9 = 27</math></td><td></td><td><math>3 \times 9 = 27</math></td></tr> </table> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>3の段の九九</b> 累加と、積+被乗数で、5や2の段のように3ずつたしていけばよい。</p> <p>3人の1だい分 <math>3 \times 1 = 3</math>  3人の2だい分 <math>3 \times 2 = 6</math> 3+3  3人の3だい分 <math>3 \times 3 = 9</math> 3+3+3  3人の4だい分 <math>3 \times 4 = 12</math> 3+3+3+3  (3×4の答えに3をたせばいい。)  3人の5だい分 <math>3 \times 5 = 15</math> 12+3  3人の6だい分 <math>3 \times 6 = 18</math> 15+3  3人の7だい分 <math>3 \times 7 = 21</math> 18+3  3人の8だい分 <math>3 \times 8 = 24</math> 21+3  3人の9だい分 <math>3 \times 9 = 27</math> 24+3</p> </div>	1だいぶん		$3 \times 1 = 3$		$3 \times 1 = 3$	2だいぶん		$3 \times 2 = 6$		$3 \times 2 = 6$	3だいぶん		$3 \times 3 = 9$		$3 \times 3 = 9$	4だいぶん		$3 \times 4 = 12$		$3 \times 4 = 12$	5だいぶん		$3 \times 5 = 15$		$3 \times 5 = 15$	6だいぶん		$3 \times 6 = 18$		$3 \times 6 = 18$	7だいぶん		$3 \times 7 = 21$		$3 \times 7 = 21$	8だいぶん		$3 \times 8 = 24$		$3 \times 8 = 24$	9だいぶん		$3 \times 9 = 27$		$3 \times 9 = 27$	<p><b>考</b>アレイ図を動かしながら「1つ分」を確かめさせたら、5の段や2の段のときのように、3ずつ増やしていけばよいことに気づかせる。</p> <p>式と答を対応させながら順に作らせる。</p>
1だいぶん		$3 \times 1 = 3$		$3 \times 1 = 3$																																										
2だいぶん		$3 \times 2 = 6$		$3 \times 2 = 6$																																										
3だいぶん		$3 \times 3 = 9$		$3 \times 3 = 9$																																										
4だいぶん		$3 \times 4 = 12$		$3 \times 4 = 12$																																										
5だいぶん		$3 \times 5 = 15$		$3 \times 5 = 15$																																										
6だいぶん		$3 \times 6 = 18$		$3 \times 6 = 18$																																										
7だいぶん		$3 \times 7 = 21$		$3 \times 7 = 21$																																										
8だいぶん		$3 \times 8 = 24$		$3 \times 8 = 24$																																										
9だいぶん		$3 \times 9 = 27$		$3 \times 9 = 27$																																										
2	<p>3の段の九九を記憶し適用する。</p>	<p>3の段の九九を唱え、カードなどを使って練習をする。</p> <p>【ドリル的学習】</p> <p>・3の段の九九の答えは、乗数が1増えると3増えることを確認する。</p> <p>3の段の九九を用いて問題を解決する。</p>	<p><b>知</b>3の段の九九の構成の仕方を理解している。(ノート・発表)</p> <p><b>表</b>3の段の九九を唱えることができ、それを用いて身の回りの問題を解決することができる。(観察・学習プリント)</p>																																											
<p><b>表</b>3の段の九九を順序よく正確に唱えたり、場面をとらえて正しく立式したりすることができる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><b>3の段の九九の言いかた</b> 3ずつふえる。1つ前の九九の答えに3をたす。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td><math>3 \times 1 = 3</math></td><td>三一が3</td><td><math>3 \times 6 = 18</math></td><td>三六18</td></tr> <tr><td><math>3 \times 2 = 6</math></td><td>三二が6</td><td><math>3 \times 7 = 21</math></td><td>三七21</td></tr> <tr><td><math>3 \times 3 = 9</math></td><td>三三が9</td><td><math>3 \times 8 = 24</math></td><td>三八24</td></tr> <tr><td><math>3 \times 4 = 12</math></td><td>三四12</td><td><math>3 \times 9 = 27</math></td><td>三九27</td></tr> <tr><td><math>3 \times 5 = 15</math></td><td>三五15</td><td></td><td></td></tr> </table> <p><b>れんしゅうのしかた</b>  かけ算の式や九九、アレイ図を見て、正しく唱えられるようにする。(2時)  「三一が3」から「三九18」まで、順に唱えられるようにする。(2時)</p> </div>	$3 \times 1 = 3$	三一が3	$3 \times 6 = 18$	三六18	$3 \times 2 = 6$	三二が6	$3 \times 7 = 21$	三七21	$3 \times 3 = 9$	三三が9	$3 \times 8 = 24$	三八24	$3 \times 4 = 12$	三四12	$3 \times 9 = 27$	三九27	$3 \times 5 = 15$	三五15			<p><b>表</b>アレイ図・九九・式を対応させながら練習させる。「3ずつ増えていく」ことをもとに、答えを覚えやすくさせる。</p> <p>「練習の仕方」で繰り返し練習させ、正確な唱え方を覚えさせる。</p>																									
$3 \times 1 = 3$	三一が3	$3 \times 6 = 18$	三六18																																											
$3 \times 2 = 6$	三二が6	$3 \times 7 = 21$	三七21																																											
$3 \times 3 = 9$	三三が9	$3 \times 8 = 24$	三八24																																											
$3 \times 4 = 12$	三四12	$3 \times 9 = 27$	三九27																																											
$3 \times 5 = 15$	三五15																																													
3	<p>[ T・T ]</p>																																													
<p>「三九27」から「三一が3」まで、逆に唱えられるようにする。(3時)  順不同で。「カードによる九九練習 一人で 二人で 教師と」(3時)  問題を解く。(3時)</p>																																														

4	4の段の九九を構成する。	<p>・1台のジェットコースターに4人ずつ乗っているときの1~5台分の人数を求める。</p> <p>4×3のかける数が1増えると答えはいくつ増えているか確かめる。</p> <p>4の段では、かける数が1増えると答えが4増えることを活用して、4の段の九九を構成する。</p>	<p><b>関</b> ものの個数をとらえるとき、すすんで乗法を用いようとする。 (発言)</p> <p><b>考</b> 乗法について成り立つ性質を用いて、九九の構成の仕方について考えている。 (ノート・観察)</p> <p><b>表</b> 4の段の九九を構成することができる。 (観察・ノート)</p>	<p><b>考</b> 問題提示に対して既習の考え方を活用して4の段の九九を構成しようとしている。</p> <p><b>4のだんの九九</b> アレイ図で。 3のだんの九九のように1つ前の九九の答えに4ずつたしていく。</p> <p>1台分 <input type="text"/> <math>4 \times 1 = 4</math>      6台分 <input type="text"/> <math>4 \times 6 = 24</math> <math>20+4</math> 1ふえると <input type="text"/> 4ふえる      1ふえると <input type="text"/> 4ふえる</p> <p>2台分 <input type="text"/> <math>4 \times 2 = 8</math> <math>4+4</math>      7台分 <input type="text"/> <math>4 \times 7 = 28</math> <math>24+4</math> 1ふえると <input type="text"/> 4ふえる      1ふえると <input type="text"/> 4ふえる</p> <p>3台分 <input type="text"/> <math>4 \times 3 = 12</math> <math>8+4</math>      8台分 <input type="text"/> <math>4 \times 8 = 32</math> <math>28+4</math> 1ふえると <input type="text"/> 4ふえる      1ふえると <input type="text"/> 4ふえる</p> <p>4台分 <input type="text"/> <math>4 \times 4 = 16</math> <math>12+4</math>      9台分 <input type="text"/> <math>4 \times 9 = 36</math> <math>32+4</math> 1ふえると <input type="text"/> 4ふえる</p> <p>5台分 <input type="text"/> <math>4 \times 5 = 20</math> <math>16+4</math>      <u>かける数が1ふえると答えは4ふえる。</u> 1ふえると <input type="text"/> 4ふえる</p>	<p><b>考</b> 4の段のアレイ図や絵で、「1台増えると何人増えるか」や「1増えると答えはいくつ増えるか」を具体的に言わせる。</p> <p>5の段や2の段のときのように、4ずつ増やしていけばよいことを分からせ、式と答を対応させながら順に作らせる。</p>
5	4の段の九九を記憶し適用する。	<p>4の段の九九を唱え、カードなどを使って練習をする。 【ドリル的学習】</p> <p>・4の段の九九の答えは、乗数が1増えると4増えることを確認する。</p>	<p><b>知</b> 4の段の九九の構成の仕方を理解している。 (ノート・発表)</p> <p><b>表</b> 4の段の九九を唱えることができ、それを用いて身の回りの問題を解決することができる。 (観察・学習プリント)</p>	<p><b>表</b> 4の段の九九を順序よく正確に唱えたり、場面をとらえて正しく立式したりすることができる。</p> <p><b>4のだんの九九の言いかた</b>      <u>4ずつふえる。</u> 1つ前の九九の答えに4をたす。</p> <p><math>4 \times 1 = 4</math>      四一が4      <math>4 \times 6 = 24</math>      四六18 <math>4 \times 2 = 8</math>      四二が8      <math>4 \times 7 = 28</math>      四七21 <math>4 \times 3 = 12</math>      四三12      <math>4 \times 8 = 32</math>      四八24 <math>4 \times 4 = 16</math>      四四16      <math>4 \times 9 = 36</math>      四九27 <math>4 \times 5 = 20</math>      四五20</p> <p><b>れんしゅうのしかた</b> <u>かけ算の式や九九、アレイ図を見て正しく唱えられるようにする。(5時)</u> <u>「四一が4」から「四九18」まで、順に唱えられるようにする。(5時)</u></p>	<p><b>表</b> 九九表やアレイ図などを頼りに九九を唱えさせ慣れさせていく。</p> <p>「練習の仕方」を繰り返し練習させ、正確な唱え方を覚えさせる。</p>
6		4の段の九九を用いて問題を解決する。 [ T・T ]		<p>「四九27」から「四一が4」まで、逆に唱えられるようにする。(6時) 順不同で。「カードによる九九練習 一人で 二人で 教師と」(6時) 問題を解く。(6時)</p>	



1 本 時	被乗数が5, 2, 3, 4の乗法計算の理解を確認し, 習熟を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「たしかめ」をする。</li> <li>「カードによる九九練習」をする。【ドリルの学習】</li> </ul>	<p><b>表</b>被乗数が5, 2, 3, 4の乗法計算ができる。 (観察・学習プリント)</p>	<p><b>表</b>被乗数が5, 2, 3, 4の乗法計算の答えを, 乗法九九を使って正しく見つけることができる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>苦手な段の九九を練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・九九カードでじゅんとなえておぼえる。</li> <li>・九九カードでぎやくとなえておぼえる。</li> <li>・九九カードではらばらとなえる。</li> </ul> </div>	<p><b>表</b>乗法九九を使って正しく答えを出せるように, アレイ図や九九の構成表で唱え方や答えを確認しながら練習させる。理解不十分な計算は重点的に練習をさせる。</p>																																																													
2	学習内容の理解を深め算数への興味を広げる	<p>「たしかめ」をする。折込みp.19の九九表に5, 2, 3, 4の段の答えを記入する。</p> <p>いろいろな問題をする。【ドリルの学習】</p> <p>・「カードによる九九練習」をする。</p>	<p><b>表</b>被乗数が5, 2, 3, 4の乗法の規則性が分かり, 乗法計算ができる。 (発言・観察・プリント)</p>	<p><b>表</b>被乗数が5, 2, 3, 4の乗法の規則性が分かり, 九九表を作ることができる。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="9">か け る 数</th> </tr> <tr> <th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th><th>5</th><th>6</th><th>7</th><th>8</th><th>9</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="4">か け ら れ る 数</th> <th>2のだん</th> <td>2</td><td>4</td><td>6</td><td>8</td><td>10</td><td>12</td><td>14</td><td>16</td><td>18</td> </tr> <tr> <th>3のだん</th> <td>3</td><td>6</td><td>9</td><td>12</td><td>15</td><td>18</td><td>21</td><td>24</td><td>27</td> </tr> <tr> <th>4のだん</th> <td>4</td><td>8</td><td>12</td><td>16</td><td>20</td><td>24</td><td>28</td><td>32</td><td>36</td> </tr> <tr> <th>5のだん</th> <td>5</td><td>10</td><td>15</td><td>20</td><td>25</td><td>30</td><td>35</td><td>40</td><td>45</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5のだんの九九 かける数が1ふえる 答えは, 5ずつふえる。</li> <li>・2のだんの九九 かける数が1ふえる 答えは, 2ずつふえる。</li> <li>・3のだんの九九 かける数が1ふえる 答えは, 3ずつふえる。</li> <li>・4のだんの九九 かける数が1ふえる 答えは, 4ずつふえる。</li> </ul>			か け る 数									1	2	3	4	5	6	7	8	9	か け ら れ る 数	2のだん	2	4	6	8	10	12	14	16	18	3のだん	3	6	9	12	15	18	21	24	27	4のだん	4	8	12	16	20	24	28	32	36	5のだん	5	10	15	20	25	30	35	40	45	<p><b>表</b>アレイ図を使って, それぞれの段で「乗数が1増えると答えは被乗数だけ増える」ことを具体的に再確認させ, 被乗数分だけたすことができるようにさせる。</p>
		か け る 数																																																																
		1	2	3	4	5	6	7	8	9																																																								
か け ら れ る 数	2のだん	2	4	6	8	10	12	14	16	18																																																								
	3のだん	3	6	9	12	15	18	21	24	27																																																								
	4のだん	4	8	12	16	20	24	28	32	36																																																								
	5のだん	5	10	15	20	25	30	35	40	45																																																								
3 4	ゲームを通して, かけ算九九に主体的に取り組めるようにするとともに, その習熟をはかる。	<p>ゲーム(「九九ビンゴ」)に取り組みながら, かけ算九九に習熟する。【ドリルの学習】</p>	<p><b>関</b>既習事項を活用し, 活動に取り組もうとしている。 (観察)</p> <p><b>表</b>既習事項を理解し, 乗法計算をすることができる。 (観察・学習プリント)</p>	<p><b>表</b>乗法の性質を理解し, 被乗数が5, 2, 3, 4の乗法計算を正確にすることができる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>「九九ビンゴ」を間違えないようにする。</p> <p>3のだんと4のだんの九九の答えで, 好きな数を書く。</p> <p>重ねたカードを順番に引いて答えを言う。</p> <p><u>答えが合っていたらその数のところをぬる。</u></p> <p>たて, よこ, ななめのどれかが3つぬれたらかち。</p> <p>決められた時間いっぱいやる。(25分間程度)</p> <p>ほかの段でもやってみる。</p> </div>	<p><b>表</b>乗法の性質を思い出させたり, 九九表を使ったりして, 答えを何度も確認させ, 被乗数が5, 2, 3, 4の乗法計算が正しくできるようさせる。</p>																																																													

6 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・被乗数が5, 2, 3, 4の乗法計算の理解を確認し, 習熟を図る。

(2) 本時の評価規準

〔表現・処理〕 被乗数が5, 2, 3, 4の乗法計算が正しくできる。

(3) 本時の展開

段階	活動内容・学習活動 教師の働きかけ 発問 ・児童の反応	指導上の留意点																				
つかむ 8分	<p>1 前時までの学習内容の想起 5, 2, 3, 4の段の九九を唱えましょう。</p> <p>2 本時の学習問題の提示 「たしかめ」を提示し, 本時の学習内容を知らせ「たしかめ」を解かせる。(3分) 今までとどこが違いますか。 ・いろんな段の九九がまざっています。</p> <p>簡単に答えを出せた計算はどれでしたか。 ・5や2の段はよく覚えているので簡単です。 ・3や4の段はすぐに答えを出すのが難しいです。</p> <p>3 学習課題の把握 本時の学習課題を把握させる。 正しく(すらすら)できる計算をふやそう。</p>	<p>学習してきた乗法九九すべてについて, 理解されているかどうかを確認する学習である事を分からせ, 本時の意欲付けとする。</p> <p>各自の理解や習熟の程度から問題点を把握させる。</p>																				
し ら べ る 23分	<p>4 各自の練習方法の確認 各自に誤答傾向の把握と練習方法を決めさせる。 どの練習をしたいですか。 ・九九を順に唱えて正しい答えが言えるようにしたい。 ・九九を逆に唱えてすらすら言えるようにしたい。 ・九九をばらばらに唱えて, 答えをすぐ言えるようにしたい。</p> <p>5 九九カードを使った計算練習【ドリルの学習】(20分間) 自分のペースで計算練習に取り組みさせる。 正しくすらすらできる計算を増やしましょう。できるようになったら「たしかめもんだい」で確かめましょう。また, 「チャレンジもんだい」で力試しをしましょう。</p> <p>(予想される練習の進め方)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>進め方</th> <th>A児</th> <th>B児</th> <th>C児</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td colspan="3">自分のペースでそれぞれの段の「九九カード」で練習を進める。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td colspan="3">「～のだんたしかめもんだい」に取り組む。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>「チャレンジもんだい」に取り組む。</td> <td>「ばら九九練習」に取り組む。</td> <td>違う段の「九九練習」に取り組む。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>「チャレンジもんだい」に取り組む。</td> <td>「たしかめもんだい」に取り組む。</td> <td>「たしかめもんだい」に取り組む。</td> </tr> </tbody> </table>	進め方	A児	B児	C児	1	自分のペースでそれぞれの段の「九九カード」で練習を進める。			2	「～のだんたしかめもんだい」に取り組む。			3	「チャレンジもんだい」に取り組む。	「ばら九九練習」に取り組む。	違う段の「九九練習」に取り組む。	4	「チャレンジもんだい」に取り組む。	「たしかめもんだい」に取り組む。	「たしかめもんだい」に取り組む。	<p>習熟の程度に合った練習方法を確認し合い, 自分にあった練習を考えさせる。</p> <p>計算練習は, チェックカードに沿って行なわせ, 自信が持てるようにする。</p>
進め方	A児	B児	C児																			
1	自分のペースでそれぞれの段の「九九カード」で練習を進める。																					
2	「～のだんたしかめもんだい」に取り組む。																					
3	「チャレンジもんだい」に取り組む。	「ばら九九練習」に取り組む。	違う段の「九九練習」に取り組む。																			
4	「チャレンジもんだい」に取り組む。	「たしかめもんだい」に取り組む。	「たしかめもんだい」に取り組む。																			

【計算の習熟における具体的評価規準と支援】		
十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)	努力を要する場合の支援の手立て
表 被乗数が5, 2, 3, 4 の乗法計算の答えを正しくすぐに見つけることができる。 支 すぐに答えが言えない段の九九を重点的に練習させる。「チャレンジもんだい」で練習の成果を確認させる。	表 被乗数が5, 2, 3, 4 の乗法計算の答えを, 乗法九九を使って正しく見つけることができる。 支 乗法九九を使って答えを見つける練習をさせ, 「たしかめもんだい」で練習の成果を確認させる。正しくできるようになったら, すらすら言えるように「ばら九九練習」に取り組ませる。	支 乗法九九を使って正しく答えを出せるように, アレイ図や九九の構成表で唱え方や答えの増え方を確認しながら練習させる。「たしかめもんだい」で理解の確認をさせ, 不十分な計算については, 重点的に再度練習させる。
6 計算練習の結果発表と誤答傾向の把握 練習結果と誤答傾向の把握をさせる。(挙手確認) 正しく言えるようになった九九や, すらすら言えるようになった九九を言いましょう。 ・5と2の段がすらすら言えるようになってきました。 ・3や4の段も正しく言えるようになってきました。 ・まだ間違える段もあるので, 練習したいです。	児童それぞれの成果と誤答傾向を明らかにし, いろいろな機会をとらえて練習しようという意欲をもたせる。	
7 練習(計算プリント) 計算プリントで, 練習の成果を確認させる。 計算が正しく言えるようになったか, すらすらできるようになったか確かめましょう。(5分) 【計算プリントにおける具体的評価規準と支援】	各自が練習した成果を感じられるように, 急がずに落ち着いて取り組むようにさせる。	
十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)	努力を要する場合の支援の手立て
表 被乗数が5, 2, 3, 4 の乗法計算の答えを, 九九を順に唱えなくても正しく言うことができる。 支 九九を順に唱えないで, できるだけ全問を解かせ, 計算力を高める。	表 被乗数が5, 2, 3, 4 の乗法計算の答えを, 九九を順に唱えて正しく言うことができる。 支 練習した段の問題にまず取り組ませる。九九を正しく唱えさせ, 答えを見つけさせる。早くできたら, 違う段の問題にも取り組ませる。	支 正しく唱えられるように, 九九の構成表で答えや唱え方を確認させながら, 乗法計算をさせる。
答え合わせをして, 正しく計算ができたか確かめましょう。		
8 学習の振り返り 今日の学習を振り返りましょう。 ・頑張れました。 ・すらすら言えるようになってきました。 ・正しく言えるようになりました。	振り返りカードに, 具体的に記入させる。	
9 次時の学習予告		

(4) 板書計画

もんだい

「たしかめ」をしよう。

かだい

正しく(すらすら)できる計算をふやそう。

みとおし

まちがえやすい九九

5のだん

2のだん

3のだん

4のだん

まとめ

れんしゅうのしかた

答えを正しくいえるように

じゆんになえる。

ぎやくになえる。

答えをぱつといえるように

ばら九九で答えを言う。

